

谷山地区



清泉寺跡

木ノ下の田の神 ▶きのしたのたのかみ

市指定／有形民俗文化財／民俗資料

[MAP S-21]

宝暦六年銘の神職型立像の田の神



かき
笠の形をしたコシキのシキをかぶり、右手に杓子、左手に碗を持つ神職型の立像である。背面に「宝暦六年子丙、奉供養田之

神 三月吉日」と刻まれている。(宝暦6年→1756) 以前は永田川向こうの水田地帯にあったが、第2次世界大戦前頃に現在地に移された。

昭和57年(1982)、鹿児島市の有形民俗文化財(民俗資料)に指定された。



●所在地／鹿児島市谷山中央4丁目 ●交通／谷山小学校近く 市営 松崎バス停、又は本町バス停 ●駐車場／無

赤崎海門誕生地 ▶あかさきかいもんたんじょうち

記念物／史跡

[MAP S-21]

江戸時代中頃の鹿児島が生んだ儒学者で、元文4年(1739)に生まれ、農業のかたわら、学問にはげんだ。やがて、島津家25代当主重豪に認められ、藩校の造士館の教授となり、寛政12年(1800)には当時の最高学府である幕府の昌平黉の教授になった。著書に「海門紀行」「かりねの床」などがある。



●所在地／鹿児島市谷山中央4丁目 ●交通／谷山小学校近く 市営 本町バス停 ●駐車場／無

地頭館跡 ▶じとうかんあと

記念物／史跡

[MAP S-20]

薩摩藩は鹿児島城のほかに113の外城をおき直轄地には地頭館(地頭仮屋)を設けた。

谷山では谷山小学校付近に地頭館が置かれ、ここが谷山地区の行政、軍事の中心となり、周囲に郷土が住んだ。

明治4年(1871)、地頭館は第15郷校となり、明治9年(1876)に谷山小となった。



●所在地／鹿児島市谷山中央1丁目(谷山小学校敷地内・谷山支所側) ●交通／市営 谷山支所通バス停 ●駐車場／無

是枝柳右衛門頌徳碑 ▶これえだりゆうえもんしょうとくひ

記念物／史跡

【MAP S-20】

文化14年(1817)に谷山松崎の商人の家に生まれた。15歳の時大隅の串良や高山に移り住み、家も貧しかったため昼間は魚や塩の行商をしながらかつて父母を養い、学問に励んだ。

32歳で谷山に帰り、塾を開き子弟の教育にあたったが、討幕運動に参加するため35歳の時、谷山を出た。そして勤皇の志士と交わり、最後は寺田屋事件で首謀者となってとら

われ、屋久島に流され、48歳で亡くなった。



●所在地／鹿児島市谷山中央4丁目 ●交通／谷山小学校近く 市営 本町バス停 ●駐車場／無

谷山城跡 ▶たにやまじょうあと

記念物／史跡

【MAP R-21】

谷山城は、鎌倉時代以後、谷山郡を治めていた郡司谷山氏が、約200年の間、居城としていた。千々輪城ともいい、一般には本城とよばれる山城であった。南北朝時代、南朝方の谷山隆信は北朝方の島津家5代当主貞久と戦い、この城を守ったが、最終的には本城を退去した。その後も8代当主久豊と伊集院頼久、15代当主貞久と出水の領主島津実久との合戦もこの城を中心に行われた。

本城は上下二段に分かれており、城内は本

城、弓場城、陣の尾の3区からなり、空堀や土塁の跡がある。上段に守護神の愛宕神社、下段には伊勢神社がある。



●所在地／鹿児島市下福元町 ●交通／JR 慈眼寺駅近く あいばす 本城バス停 ●駐車場／無

懐良親王御所記念碑 ▶かねながしんのうごしょきねんひ

記念物／史跡

【MAP R-20】

父の後醍醐天皇の命令を受けて、懐良親王は興国3年(1342)征西将軍として薩摩に入り、南朝方の谷山郡司である谷山五郎隆信に迎えられ、御所原(見寄ヶ原)に本陣を置いた。これに力を得た南朝軍は、北朝方の島津家5代当主貞久を苦しめた。しかし一方では、波之平城の戦いや紫原の戦いに破れるなど、南北両軍の一進一退が続いた。

懐良親王は6年間ほど御所原に住んでいたが、決定的な勝利をおさめることができないまま、正平2年(1347)の11月下旬に、海路を渡って

肥後(熊本)の菊池氏のところに向かった。

現在、御所原は南部斎場となり、その一角に「征西将軍懐良親王御所記念碑」がたてられている。



●所在地／鹿児島市上福元町(南部斎場駐車場内) ●交通／谷山IC入口バス停 ●駐車場／有

伝・秀頼の墓 ▶でん・ひでよりのはか

記念物／史跡

[MAP S-21]

豊臣秀頼の墓と伝えられる宝塔は、高さ約2mもある堂々たるものである。大坂城が落城した時、島津氏が秀頼をこの谷山の地にかくまったといわれているが、塔の下からは何も出なかったといわれる。塔に刻まれた文様から、初代谷山氏の供養塔ではないかともいわれている。



●所在地／鹿児島市谷山中央4丁目 ●交通／谷山小学校近く 市営 本町バス停 ●駐車場／無

見寄板碑群 ▶みよりいたびぐん

記念物／史跡

[MAP R-20]

ニケンドン(妙見ドン)と呼ばれる所にある供養塔群で、1基は安山岩製、3基は軽石製の板碑で4基とも三面塔婆で大日如来を表わす種子が刻まれている。他の一つは阿弥陀岡の祠で、どちらも板碑に梵字が刻まれ、南北朝時代のものではないかといわれている。おそらく、谷山氏の供養の

ためにたてられたものと考えられる。高さは40cm～150cmである。



●所在地／鹿児島市上福元町 ●交通／谷山中央自動車学校近く あいばす 見寄西バス停 ●駐車場／無

入來の田の神 ▶いりきのたのかみ

市指定／有形民俗文化財／民俗資料

[MAP S-19]

享保二十一年銘の僧型立像の田の神



この田の神は頭巾のようなコシキのシキをかぶり、右手に杓し、左手にすりこぎを持ち、僧型の立像である。高さは約63cmで、裏側に

と刻まれている。

昭和57年(1982)、鹿児島市の有形民俗文化財(民俗資料)に指定された。

「享保二十一年丙辰二月吉日 □□休次郎 入來直兵衛 入來□□」(享保21年→1736)



●所在地／鹿児島市東谷山7丁目 ●交通／幸ヶ丘団地前バス停 ●駐車場／無

波之平刀匠之遺跡 ▶ なみのひらとうしやうのいせき

記念物／史跡

【MAP S-20】

初代刀匠行安が一条天皇の御剣を作ったことに由来する



薩摩の名刀といわれる波之平の初代刀匠行安は、橋口正国^{やまよしのくに}といって大和(奈良)の国から薩摩に入り、永延(987～989)年頃、この地に住んだ。波之平地区は近くに谷山海岸の豊かな砂鉄、背後の山に木炭、そして焼刃渡しの水もあり、刀剣づくりに適していた。

行安は一条天皇の御剣を作ったことから、波平刀は全国に名を知られるようになり、明治初期まで64代、900年も続いた。波平由来の刀には国宝や県の文化財に指定された刀もある。

「波平」の名は、正国が船で京に行く途中、嵐にあい、自分のつくった刀を海に投げて神に祈ったところ、波が急に静かになったことから起こったといわれている。

現在、焼刃渡しの水として利用したという井戸が、波之平と笹貫に残っている。



●所在地／鹿児島市東谷山4丁目 ●交通／高見バス停 ●駐車場／無

塩釜神社 ▶ しおがまじんじや

有形文化財／建造物

【MAP S-20】

上塩屋・中塩屋・東塩屋・西塩屋・和田塩屋とよばれるところは、塩が専売制度になるまでは、半農半塩で生活を維持して来た所である。

この神社の祭神は塩釜大明神で航海安全、製塩などの神として信仰されている。



●所在地／鹿児島市小松原2丁目 ●交通／市営 中塩屋バス停 ラ・サール学園近く ●駐車場／無

初代長太郎創業之地 ▶ しょだいちやうたらうそうぎやうのち

記念物／史跡

【MAP S-20】

初代有山長太郎は、島津家の磯御庭焼の絵師だったが、絵付加工だけで満足せず、窯業の本場京都で修行した。帰ってからも御庭焼で働いていたが、明治32年(1899)現在の清見橋の近くに窯を築いて独立した。最初は「清見焼」というのだが、大正9年(1920)、黒田清輝にみとめられ「長太郎焼」と命名され

た。独特の色合いをもつ新しい黒薩摩で、「土の味」と「火の匂」にその特色があるとされる。



●所在地／鹿児島市谷山中央2丁目 ●交通／市営 谷山駅前バス停 ●駐車場／無

永田の田の神 ▶ながたのたのかみ

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP S-20】

笹貫バイパスの永田橋の近くの公園に、高さ約70cm、右手に杓子、左手には棒のようなものを持ち、コシキのシキを頭巾のようにかぶった僧型立像の田の神がある。

現在、公園の周辺は住宅地になっているが、以前はこの一帯は田んぼで、この田の神も近くの田んぼのあぜ道にたっていたものである。

享保6年（1721）の銘が刻まれている。



●所在地／鹿児島市東谷山5丁目(島ノ森公園内)

●交 通／あいばす 永田バス停

●駐車場／無

煙硝倉跡 ▶えんしょうくらあと

記念物／史跡

【MAP S-20】

小松原2丁目永田川に沿った道路傍に、高さ140cm、巾37cmの角柱に火神、水神、山神、地神、稲荷、裏面に「元治二年乙丑四月吉日謹立」（元治2年→1865）と彫られた碑がある。谷山電停付近一帯から清見橋を境にして、永田川の下流の谷山温泉センター、北にのびて市営小松原納骨堂付近一帯の面積4町7反歩の地域に、薩摩藩の煙硝倉（火薬製造所）があった。薩藩海軍史に、安政5年（1858）島津家28代当主斉彬が谷山の中塩屋に硝石場を建設したとある。煙硝倉の周囲は、からた

ちの木で囲まれ、それに隣接して、しゅろの木が2m間隔で植えられ、この地には誰も踏みこめなかった。

西南戦争の時、この煙硝倉は官軍の手によって焼き払われた。その焼け方が激しく、波之平付近の民家など類焼の災いにあった。



●所在地／鹿児島市小松原2丁目

●交 通／市営 谷山駅前バス停 塩屋橋近く

●駐車場／無

射場山跡 ▶いばんやまあと

記念物／史跡

【MAP S-20】

この射場跡は、御流儀（洋式）砲術の演習が行われた所で、大砲の射場であった。島津斉彬文書によれば、弘化3年（1846）8月28日、谷山中塩屋において洋式砲術の演習があり、島津家28代当主斉彬が上覧したとある。

大仕掛けの演習で、真夏の炎天下に砂浜での砲車は容易に回らず、大人数で砲車を押して移動させるなど、全く実戦のようであったといわれている。総指揮指南役の成田正右衛門は、ひとしお緊張し、当日の上覧の様子は、大脇権一兵衛が手記し、斉彬の質問書も残っている。

演習の行われた場所は、現在のラ・サール

学園敷地付近の砂浜地帯であったが、この砂浜地帯は完全に埋め立てられ、当時の様子は残っていない。ただ射場山はいくらか形態は変わったが、人工的に作られた射場の面影をいくらか残している。現在射場山周辺は市の公園となっている。



●所在地／鹿児島市小松原1丁目(射場山公園内)

●交 通／市営 中塩屋バス停 ラ・サール学園近く

●駐車場／無

鹿児島市山田町の田の神 ▶かごしましやまだちょうのたのかみ

県指定 / 有形民俗文化財 / 民俗資料

[MAP R-18]

享保八年銘の僧型立像の代表的な田の神



像の高さは約60cm、右手に杓子、左手に細長い棒のようなものを持ち、頭には頭巾のようなコシキのシキをかぶっている。薩摩半島の僧型立像田の神の代表的なものである。美しくよく整った彫刻で、台座には雲竜紋の模様があり、その下の台石には「霜月吉日 享保八歳 女人相中」(享保8年→1723)と刻まれていることから、地域の女

性たちによってたてられたことがわかる。

隣には「安永三年 女相中」(安永3年→1774)と刻まれた二十三夜待供養塔もある。

昭和41年(1966)、鹿児島県の有形民俗文化財(民俗資料)に指定された。



●所在地 / 鹿児島市山田町(JAグリーン鹿児島山田支店敷地内)

●交通 / 谷山北中学校近く あいばす 山田バス停 ●駐車場 / 有

滝ノ下の田の神 ▶たきのしたのたのかみ

市指定 / 有形民俗文化財 / 民俗資料

[MAP R-19]

谷山一大きな僧型立像の田の神



農道沿いに立つ滝ノ下の田の神は高さ約2m近くもあり、谷山地区では一番大きなものである。頭にはコシキのシキをかぶり、右手には杓子、左手には杖のようなものを

持ち、僧の姿をした立像の田の神である。

台石は3層からなり、最下層は台形状、2層は八角形の角柱、最上層は厚い円盤状で雲竜紋を浮き彫りにしている。制作年代は不明である。

昭和57年(1982)、鹿児島市の有形民俗文化財(民俗資料)に指定された。



●所在地 / 鹿児島市中山町

●交通 / 鹿児島ふれあいスポーツランド近く あいばす 滝ノ下西バス停

●駐車場 / 無

郷土と農民が合同で建立した田の神



県道脇にあったが、現在は田んぼの畦にたてられている。高さ79cmの田の神舞神戦型で、長袴をつけ、両足をやや開いてすっと立っている。頭にはコシキのシキを頭巾のようにかぶり、あご

ひげを垂らしている。顔面は破損して表情はわからないが、やや顔を伏せ、その視線は足下の田をみつめているようである。右手は欠けて持物はわからないが、左手には腕をもっている。

台座の部分は複雑で、正方形の台座2段

の上に、八角形の赤石の台座、その上に雲竜紋の浮彫りの円形の台座があり、その上に田の神像がたっている。八角形の台座には「享保十二丁未奉造立」(享保12年→1727)の刻銘がみられる。また造立者の名が刻まれており、名字のあるもの8名、名だけのもの24名あることから、郷土と農民が合同で建立したことがわかる。以前この田の神は、1度不作の他の地区から盗まれたが、1年たったら返され、盛大な祭りもあったという。

昭和57年(1982)、鹿児島市の有形民俗文化財(民俗資料)に指定された。



●所在地／鹿児島市山田町 ●交通／谷山北中学校近く あいばす 札下バス停 ●駐車場／無

安永十年銘の僧型座像の田の神



像の高さは61cm、右手に杓子を持ち、頭にはコシキのシキをかぶっている僧型の座像である。かたわらの碑には「安永十年二月二十四日川口村中」(安永10年→1781)の銘がある。

都市化の波で田

の神の鎮座している場所も変化してきている中で、この田の神は周辺の田んぼがよく見渡せる場所にある。

昭和57年(1982)、鹿児島市の有形民俗文化財(民俗資料)に指定された。



●所在地／鹿児島市五ヶ別府町 ●交通／宮川野外活動センター近く あいばす 川口バス停 ●駐車場／無

蕨野の田の神 ▶ わらびのたのかみ

市指定 / 有形民俗文化財 / 民俗資料

[MAP R-17]

庚申供養のために建立された旅僧型立像の田の神



高さ63cmで、右手に杓子、左手に椀を持った旅僧型の立像である。「宝暦十二壬午年十月吉日奉寄進□申二才中」の銘がある。□は「庚」の字であると考えられることから、宝暦12年(1762)、

村の二才たちによって庚申供養のために建立されたものであることがわかる。

五ヶ別府町蕨野にあったが、星ヶ峯ニュータウン建設のため、現在地に移設された。

昭和57年(1982)、鹿児島市の有形民俗文化財(民俗資料)に指定された。



●所在地 / 鹿児島市星ヶ峯3丁目(星ヶ峯第三公園内) ●交通 / 星ヶ峯西小学校近く 星ヶ峯三丁目バス停 ●駐車場 / 無

大旱魃の碑 ▶ だいかんぱつのはひ

記念物 / 史跡

[MAP R-19]

中山地区は水田地帯だが、昭和9年(1934)には大旱魃におそわれて田植えができず、人々は食糧不足に苦しめられた。そこで、2度とこのようなことが起きないようにと願って記念碑が建てられた。碑文には「近隣の村からの好意で取水ができたことで、稲を植えることができ、争いごとひとつも

なかったことは喜ばしいことである」との主旨が刻まれている。



●所在地 / 鹿児島市山田町 ●交通 / 中山小学校近く あいばす 山田下バス停 ●駐車場 / 無

水天の碑 ▶ すいてんのひ

記念物 / 史跡

[MAP R-18]

水をつかさどる龍神で、西方を守護する自然石の水天で、「永谷おとしの水神」ともよばれている。永谷川の水をこのおとしにより、山田、中村一帯に流し、田700haをうるおしたという。石碑には「嘉永五年」(1852)の銘と郡奉行、庄屋などの名前が刻まれている。



●所在地 / 鹿児島市山田町 ●交通 / 指宿スカイライン山田料金所近く あいばす 鹿倉バス停 ●駐車場 / 無

皇徳寺跡 ▶こうとくじあと

記念物／史跡

【MAP R-19】

七堂の伽藍を有する堂々たる寺であった



南北朝対立の頃、征西将軍として薩摩に入国した後醍醐天皇の皇子懐良親王は、仮の居城となった御所原のとなり、国土平安を祈って、皇立寺を建てた。南朝方の谷山郡司谷山五郎隆信の軍が北朝方の島津氏に敗れ、懐良親王も肥後の菊池氏を頼って去ったが、弘和3年(1383)に福岡の矢部で亡くなった。谷山五郎隆信の子忠高は懐良親王の位碑を皇立寺に安置した。その後親王をしのいでここを訪ねて来た

無外円照和尚に帰依した忠高は、皇立寺を山田に移し、無外円照和尚を開山として、永谷山皇徳寺を創建した。皇徳寺は能州総持寺の末寺で、七堂の伽藍を備えた寺格の高い堂々たる寺で、多くの信者や名僧がいた。しかし、明治2年(1869)の廃仏毀釈によりとりこわされてしまった。

杉馬場、下馬先、寺屋敷の地名や仁王像、無外円照、同和尚の師巖山禅師の供養塔並びに歴代和尚の墓などから、当時の寺の大きさが偲ばれる。また、「あなぶろ」と伝えられる場所や白蛇の話伝える池も残っている。なお薩藩神社仏閣調査によると、皇徳寺は福昌寺の末寺で寺高100石とある。



●所在地／鹿児島市山田町 ●交 通／あいばす 皇徳寺橋バス停 ●駐車場／無

妙楽寺跡 ▶みょうらくじあと

記念物／史跡

【MAP R-18】

最初は曹洞宗であったが、延享5年(1748)に時宗浄光明寺の末寺となった。

廃仏毀釈でこわされたが、現在、門の前の仁王像、境内の南無阿弥陀仏を刻んだ角手水鉢、墓地の六道能化地藏などが、当時の様子を伝えている。



●所在地／鹿児島市山田町 ●交 通／あいばす 大河内バス停 ●駐車場／有

大川内観音 ▶おおかわうちかんのん

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP R-18】

高さ約1mの観音坐像で、享保16年(1731)に久永伸右衛門が建立したと書かれている。大川内地区に残っている石塔群には久永家に関するものも多く見られる。久永家の祖先は人吉(熊本県)の相良家の出で、島津家15代当主貴久によりこの大川内に人質として閉じ込められたのがは

じまりだといわれる。大変信仰心のあつい人だったようである。



●所在地／鹿児島市山田町 ●交 通／あいばす 大河内バス停 ●駐車場／無

石壇供養碑 ▶いしだんくようひ

記念物／史跡

【MAP R-18】

このあたりは湿地のためいつもぬかかって、そこを通るのが大変であった。そこで石(石壇)を敷く工事が行われた。この石碑は、その時の石を供養するために村人が建てた。石碑には「石壇供養 文化四年丁卯年 隈元万助」(文化4年→1807)と刻銘されている。



●所在地／鹿児島市山田町 ●交 通／あいばす 皇徳寺ロータリーバス停 ●駐車場／無

茂頭観音 ▶もつかんのん

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP Q-17】

茂頭の寺山の中腹に、姿の美しい観音座像がある。高さ1.2m、横2mの大きな石に浮き彫りされたもので、年代はわからない。地元の人々は寺山観音ともよんでいる。一説によると、伊集院の曹洞宗雪窓院住職であった伊藤祐義は享保14年(1729)この地に寺を開山し、それ以来ここを寺山

とよぶようになったが、この観音もその当時のものではないかといわれる。



●所在地／鹿児島市五ヶ別府町 ●交 通／あいばす 春山口バス停 ●駐車場／無

三重野観音 ▶みしげのかんのん

記念物／史跡

【MAP Q-18】

三重野観音はかくれ念仏の跡と伝えられている。高さ2m、入口1m、奥行1.5mの岩穴の中に50cmほどの観音座像が浮き彫りされており、地区の人々がかくれて信仰してきたものであろう。現在では菌の神ともいわれて、お参りする人も多い。



●所在地／鹿児島市五ヶ別府町 ●交 通／あいばす 三重野観音バス停 ●駐車場／有

饅頭石 ▶まんじゅういし

記念物／史跡

【MAP Q-17】

五ヶ別府仁田尾のバス停から、水源地を目指て行くと、山林の中に周囲約12m、高さ1.5m、てっぺんにくぼみのある大きな石がある。饅頭の形をしているので、饅頭石とよばれ、上伊集院駅も以前は饅頭石駅といった。島津家15代当主貴久がこの石に腰をおろし、くぼみ

の水で鬢のほつれを直したといわれる。



●所在地／鹿児島市五ヶ別府町(饅頭石ゴンプ所奥) ●交 通／あいばす 春山口バス停 ●駐車場／無

鎮守神社 ▶ちんじゅじんじゃ

有形文化財／建造物

【MAP Q-17】

五ヶ別府唯一の神社で、祭神は猿田彦命。神体は8個で、3月5日、12月5日に祭りが行われている。この神社を俗に八社権現といっているが、記録によると、江戸中期の頃、近郊8つの村の産土神を合祀したので、この名があるという。



●所在地／鹿児島市五ヶ別府町 ●交通／あいばす 鎮守神社バス停 ●駐車場／有(駐車スペース 1台分)

鉄砲射場の跡 ▶てっぽういばのあと

記念物／史跡

【MAP Q-18】

天保6年(1835)、森喜平太長賢は、島津家27代当主斉興より小銃指南役を許され、砲術の訓練をする射場を上段(今の宮川野外活動センター正門横)に建て、そこで足軽などに指導した。門人帳によると、107名の者が周辺の集落からここにやって来ていたという。射場は文久3年(1863)に森喜平太が亡くなるまで続いた。



●所在地／鹿児島市五ヶ別府町(宮川野外活動センター敷地内) ●交通／あいばす 川口バス停 ●駐車場／有

三条小鍛冶遺跡 ▶さんじょうこかじいせき

記念物／史跡

【MAP Q-18】

三条小鍛冶宗近は平安時代の人で、京の役人であったが、罪をおかして薩摩へ流された。宗近はこの地に住んで橋口正国(初代波之平行安)に刀づくりを学び、許されて永祚元年(989)、京に帰ってからは、刀匠として有名になった。



●所在地／鹿児島市五ヶ別府町 ●交通／あいばす 三重野中央バス停 ●駐車場／無

白山比咩神社 ▶しらやまひめじんじや

有形文化財／建造物

【MAP R-19】

祭神は白山比咩命。例祭は3月19日と10月19日に行われる。境内には「正徳五年」(1715)と刻まれた献燈と、「文政二年」(1819)と刻まれた水鉢、その他、大正10年(1921)の神社改築記念碑などがある。



●所在地／鹿児島市中山町 ●交通／あいばす 中山温泉前バス停 ●駐車場／無(参拝者用に、1台分程のスペースあり)

帝釈寺跡 ▶たいしゃくじあと

記念物／史跡

【MAP R-19】

滝之下川ぞいを山手に向かって行くと、竹やぶの中に無縁墓の碑と、「寛政十二年十一月七日浦村中」(寛政12年→1800)と刻まれた祠がある。

ここは皇徳寺の末寺として正平年間(1346～69)に建てられた帝釈寺のあったところである。このお寺は13代続いたとい

われるが、廃仏毀釈によりこわされてしまった。



●所在地／鹿児島市中山町 ●交通／鹿児島ふれあいスポーツランド近く あいばす 滝ノ下西バス停 ●駐車場／無

辺田学館跡 ▶へたがっかんあと

記念物／史跡

【MAP R-19】

江戸時代は、このあたりを辺田郷とよんでいた。辺田郷は島津家17代当主義弘に従って朝鮮戦役に出陣した郷土の子孫が多く、早くから武芸や学問の盛んな所であった。ここに辺田郷中稽古所が設けられ、武芸の稽古場となっていたが、慶応元年(1865)辺田学館とあらためた。この頃、教育にあたったのが川畑半平清真である。その後、辺田学舎とよぶようになったが、ここに学んだ人々の多くは薩英戦争、戊辰戦争、西南戦争などに参戦して、辺田郷中の名を高めた。川畑半平翁はさらに士族の

みでなく、庶民にも学問が必要であるとして、明治5年(1872)士族平民合同の白山小学校を設立。明治20年(1887)、白山小、辺田学館、黒丸小が一緒になって中山小学校が創立された。



●所在地／鹿児島市中山2丁目 ●交通／中山駅前バス停 中山小学校裏 ●駐車場／無

伊集院小伝次の墓 ▶いじゅういんこでんじのはか

記念物／史跡

【MAP R-19】

豊臣秀吉は、島津氏を降伏させると、島津家17代当主義弘の第一の家臣伊集院幸侃を人質として連れて行った。しかし、幸侃は謀反をくわだてたとして、島津家18代当主家久に殺されてしまった。幸侃の子のうち、小伝次の弟の三郎五郎・千次郎も、その後、滝ノ下で殺された。

この墓は正徳2年(1712)に建てられ、小伝次の墓とよばれているが、弟2人の墓ではないかともいわれている。土地の人

たちは「こちどんの墓」とも呼んでいる。(小伝次の墓は富隈城跡にある。谷山市誌より)



●所在地／鹿児島市中山町 ●交通／鹿児島ふれあいスポーツランド近く あいばす 滝ノ下西バス停 ●駐車場／無

慈眼寺跡 ▶じげんじあと

市指定／記念物／名勝

【MAP R-21】

日羅上人が開いたとされる薩摩三寺の一つにあたる名刹



慈眼寺は今から1300年以上前の推古天皇の頃、百済国(朝鮮)から来た名僧日羅上人によって開基されたと伝えられ、聖観音像が安置されていたという。その後、天文11年(1542)に島津家15代当主貴久によ

て改宗されて福昌寺の末寺となり、曹洞宗として栄えた。以来、代々島津家の崇敬あつく、18代当主家久は、自分の号をとって慈眼寺と名づけた。当時、坊津の一乗院、志布志の宝満寺とともに、薩摩の三寺といわれた名刹であった。明治2年(1869)の廃仏毀釈により観音堂は取り壊され、その後、稲荷神社が建てられた。現在は磨崖碑や仁王像、その他の石碑が残っている。

昭和49年(1974)、鹿児島市の記念物(名勝)に指定された。



●所在地／鹿児島市下福元町 ●交通／市営 慈眼寺さくら広場前バス停又は、あいばす 慈眼寺公民館前バス停 ●駐車場／有

新しい形式の土器が発掘された縄文時代後期の重要な貝塚



草野貝塚は、昭和23年(1948)頃、松林を開墾していたときに発見され、昭和26年、56年、57年(1951, 1981, 1982)と3回にわたって発掘調査が行われた。県内の数少ない貝塚の中でも重要な遺跡の一つである。

貝塚は七ツ島に近いシラス台地の北側斜面にあって、縄文時代後期頃、ここに住んでい

た人たちの生活の跡である。貝塚からは土器(つば類)、石器(石斧、軽石加工品)、骨角器(貝輪、垂飾品、つり針)、自然遺物(魚骨、貝殻、獣骨、鳥骨)などが出土した。とくに、ここから新しい型式の土器が発掘され、草野式と名づけられた。また、この頃、北、中九州と海を通じて交流もあったことが、出土した遺物から明らかになっている。

出土した遺物は、平成11年(1999)、鹿児島市の有形文化財(考古資料)に指定された。現在、ふるさと考古歴史館に収蔵されている。



●所在地／鹿児島市下福元町 ●交通／あいばす 光山団地中央バス停 ●駐車場／無

清泉寺跡 ▶せいせんじあと

日羅上人の作とされる阿弥陀摩崖仏を本尊とする



清泉寺は川辺の宝福寺の末寺で曹洞宗である。本尊は阿弥陀摩崖仏で高さ約2.7m、百済の僧、日羅上人の作と伝えられている。またとなりに「建長三年」(1251)の銘のある小磨崖仏もある。寺を建てたのは日羅上人と伝えられるが、一時すたれ、応永年間(1394～1427)に覚和和尚が再興した。しかし明治2年(1869)の廃仏毀釈で、廃寺となった。境内には石垣、覚和和尚の墓、阿吽金剛力士像磨崖仏、五輪塔群などが残っている。

また、清泉寺は垂水の島津大和守久章が正保2年(1645)自害した場所であり、久章とその家臣の墓碑がある。土地の人々は久章のことを「大和さあ」と呼んで親しんできた。島津久章は島津家15代当主貴久の弟忠将の子孫で、18代当主家久の娘をめとり、垂水新城屋敷の祖となった。寛永16年(1639)、19代当主光久の命を受け江戸に行き、その帰り道、紀州家に立ち寄った際に駕籠に乗ったまま玄関に横付け挨拶を行うなどして問題を起し、川辺の宝福寺に閉じこめられた。藩命で島流しを申しつけられたが、きかず、末寺谷山清泉寺に移された。そして、上意討ちにあい、亡くなった。30歳であった。



●所在地／鹿児島市下福元町 ●交通／あいばす 草野中バス停 ●駐車場／無

庚申供養塔 ▶ こうしんくようとう

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP R-21】

円筒形で、高さ64cm、巾28cmである。建てられたのは延享4年(1747)2月で、「奉庚申供養施主男二十一女九人肥後山口之住人石切金兵衛」と銘がある。

庚申とは十干十二支にいう「庚申」のことで、この日は人間の体にすむ三尸さんしという虫が天にのぼって、その人の罪を天の神につげるというので、その夜は眠らないで夜

を明かすならわしがあり、その供養のために建てられたものである。



●所在地／鹿児島市坂之上2丁目 ●交通／和田中学校近く あいばす 下福元北バス停 ●駐車場／無

国生先生記念碑 ▶ こくしょうせんせいきねんひ

記念物／史跡

【MAP S-24】

びわ作りによる地域興しに奔走した地下足袋先生



大正3年(1914)の桜島大爆発後、平川小学校の校長となった国生岩右衛門先生は子供たちが家庭の貧しさから学校をよく休むことから、平川の教育は貧乏から脱出しなければ成功しないと考え、土質・気候のよく似ている桜島と同じようにびわの木を植えることを思いついた。

大正5年(1916)、長崎県から茂木びわの接穂3本を持ち帰り、学校のびわの木に接木し、青年団の協力もあって3年目の大

正8年(1919)には6000本にもなった。村人の中では校長を変だと思つた者もあったが、校長はびわは家の宝、地域の繁栄をもたらすものであると説得をつづけ、地下足袋先生といわれるほど、地下足袋姿で地域を回った。やがてびわが実り、地域の人々は国生校長の精神を理解した。しかし、大正9年(1920)3月、校長は病に倒れた。

その後、平川のびわは有名になり、昭和8、9年(1933、1934)頃は桜島をしのぐようになった。しかし、戦時中、からいも畑にかえてしまったので、その面影は今はない。

昭和3年(1928)に平川小学校の校庭に国生校長の遺徳をしのんで記念碑が建てられた。



●所在地／鹿児島市平川町(平川小学校内) ●交通／JR 平川駅 平川バス停 ●駐車場／無

新寿安松の碑 ▶しんじゅあんまつのひ

記念物／史跡

【MAP R-21】

波平刀匠橋口安張(56代)は、寿安と号し、文禄・慶長の役に参加する時、松の木を屋敷内に植え、戦死したらこれを墓にするよう頼んだ。やがて無事帰ってみると、松は青々と繁っており、「寿安松」として有名になったが、それが枯れたため、2代目の松が植えられ、文化4

年(1807)寿安6代の孫周周によりこの碑が建てられた。



●所在地／鹿児島市坂之上2丁目 ●交通／あいばす 下福元北バス停 ●駐車場／無

烏帽子嶽神社(本殿) ▶えぼしだけじんじや(ほんでん)

有形文化財／建造物

【MAP R-25】

烏帽子嶽の頂上にある神社で、指宿スカイラインの木床峠から500mぐらいのところにある。

祭神は須佐之男命・手力男之命で、鳥津家15代当主貴久が神社をたてなおし、修験者長野武蔵坊に命じて、日向、薩摩、大隅の平定

を祈らせたといわれる。例祭は春と秋の彼岸の中日で、平川小の近くに分社もある。



●所在地／鹿児島市平川町 ●交通／烏帽子岳自然遊歩道コース内 烏帽子岳山頂 平川駅から約4.5km ●駐車場／無

伊佐智佐神社 ▶いさちさじんじや

有形文化財／建造物

【MAP S-21】

祭神は伊弉册命ほか二神で紀伊国(和歌山県)からここに迎えたといわれる。谷山の鎮守神で、例祭のときは浜下りが盛大に行われた。



●所在地／鹿児島市和田3丁目 ●交通／和田小学校近く あいばす 和田名バス停 ●駐車場／無

セツ島 ▶なつしま

記念物／史跡

【MAP S-22】

セツ島は下福元町光山の海岸に浮かぶ7つの島からなり、古くから景勝の地としてよく知られていた。1番大きい父島には神を祭る祠堂もあった。春は潮干狩、夏は海水浴とにぎわっていた。谷山臨海工業地帯の造成により、セツ島も埋められることとなったが、地区の人々の熱意によって父島は残され、保存された。いま、

父島の前には、セツ島を記念して石碑が建てられ、後世に伝えられている。



●所在地／鹿児島市下福元町 ●交通／セツ島サンライフプール近く ●駐車場／無

全国でも数少ない錫鉱山跡、藩の貴重な財源となった



錫山は、江戸時代はじめ八木主水佑元信やぎもんどのすけもとのぶによって錫鉱が発見されてから、錫の産出地として大変なにぎわいをみせた。現在は石碑などがたっているばかりで、当時のにぎわいを見ることはできない。

しかし、錫山には、今も露天掘跡や山師あてんぼり（鉱夫）たちの住居の石垣、坑内で使用されたというランプなどが残されている。

八木元信は、明暦元年（1655）、41歳のとき錫鉱を発見し、開発した。

元信は、はじめ自分の力でこの錫鉱を開発し、税金として運上金うんじょうきんを島津氏におさめていた。その後、元禄14年（1701）に島津氏の経営に移り、天保年間（1830～1844）には年平均11.53tの錫が産出され、藩の大きな収入源しゅうにゅうげんとなった。

産出量が「十万斤」時代といわれた安政元年（1854）頃は300人もの山師が働いていた。遠く県外からやって来た人々たちで、大変にぎわったといわれる。



●所在地／鹿児島市下福元町 ●交通／錫山小・中学校近く 錫山バス停 ●駐車場／無

錫鉱発見の碑 ▶すずこうはっけんのひ

錫山発見から300年を記念して、昭和31年（1956）に地福山にたてられたものである。近くには錫鉱の露天掘りの跡もある。



●所在地／鹿児島市下福元町 ●交通／錫山小・中学校近く 錫山バス停 京大大学校島観測所錫山観測所の方へ進む ●駐車場／無

錫山の発見者八木元信の墓 ▶すずやまのはっけんしゃやぎもとのぶのはか

八木元信は、桓武天皇の流れをくむ八木家初代光盛より9代目にあたるといわれ、藩の勘定奉行をつとめた。寛文11年（1671）に亡くなり、西谷墓地の墓石には「安全院殿盛淳籌大居士」の法名が刻まれている。



●所在地／鹿児島市下福元町 ●交通／錫山小・中学校近く 錫山バス停 ●駐車場／無

手形所跡・御蔵跡 ▶てがたしよあと・おくらあと

記念物／史跡

【MAP P-22】

錫山公民館の広い敷地の中に手形所跡という石碑が建っている。手形所は最初、東谷の御座元にあったので御座ともよび、金山奉行、書役などの役人が勤めていた役所であった。

御蔵跡は米や錫を保管するための倉庫のあったところで、この倉庫には年750石の

米が田布施の興下倉から運ばれ、鉾山で働く人たちに支給された。



●所在地／鹿児島市下福元町 ●交通／錫山小・中学校近く 錫山バス停 ●駐車場／無

大山祇神社・立神神社 ▶おおやまづみじんじや・たてがみじんじや

有形文化財／建造物

【MAP P-22】

大山祇神社は錫鉾の発見者八木元信がたてた神社で、大山祇神社は鉾山の神であるおやまづみのみこと大山祇命を祭り、毎年10月19日には奉納相撲が行われ、約300年の歴史がある。

立神神社は、鉾山で働く人たちの幸せを願って、最初は立山岳に建てられ、宝暦2

年(1752)に、現在地に移された。



●所在地／鹿児島市下福元町 ●交通／錫山小・中学校近く 錫山バス停 ●駐車場／無

女郎墓 ▶じょうらうばか

記念物／史跡

【MAP P-22】

錫山中学校の裏手に、女郎墓といわれる墓がある。錫山で古くから歌われている石刀節(石当節)の中にも出てくるが、彼女たちまつわる話はほとんど残っていない。



●所在地／鹿児島市下福元町 ●交通／錫山小・中学校近く 錫山バス停 ●駐車場／無

鬢石 ▶びんいし

記念物／史跡

【MAP P-21】

伊作街道から南西に約2km、旧吹上町との境にある。高さ2m、周囲8mほどの大石で、その平らなてっぺんに周囲1.3m、深さ25cmのくぼみがある。

この水は枯れたことがないといわれている。大永7年(1527)鳥津家15代当主貴久が出水城主島津実久の反乱にあい、田布施城にのがれる途中、この地に立ちより、こ

の水で鬢のほつれをなおしたと言われる。そこでこの石を「お鬢石」とよぶようになった。



●所在地／鹿児島市下福元町 ●交通／県道20号線 錫山バイパス沿いの鹿児島ゴルフリゾートを右手に見ながら三叉路を右折、道なりに進む ●駐車場／無

御飯屋跡 ▶おかりやあと

記念物／史跡

【MAP P-22】

島津家15代当主貴久は、大永7年(1527)出水城主島津実久の反乱にあい、鹿児島^たの城下^たを出て、小野、鬢石^{びんいし}から岩屋^いを通り田布^た施城^せにのがれた。その後、貴久は加世田と鹿児島^たの往復はいつも岩屋^いを通ることにしたので、ここに仮屋^{かりや}を設けて休憩所とした。



●所在地／鹿児島市下福元町 ●交通／つわちゃんバス 長谷コミセン三叉路バス停 ●駐車場／無

火の河原跡 ▶ひのこらあと

記念物／史跡

【MAP P-23】

火の河原は「ひのこら」といい、川辺町に流れ込む万之瀬川の上流の水源地^たの谷間にある。藩政時代、前之浜(和田海岸付近)から砂鉄^{さてつ}を運び、この木炭^{せいれん}を利用して粗鉄^{そてつ}を製錬した所である。粗鉄は馬に乗せて、磯の集成館工場に運ばれた。火は木

炭火、河原はとけた粗鉄のどろどろとした流れを言ったものである。



●所在地／鹿児島市下福元町 ●交通／ひまわりバス 火之河原バス停 火の河原小学校跡地 ●駐車場／無